

FICoN第4回ウェブ検討会 (R4.6.29)

○「川中・川下のシステム・イノベーションがもたらす スギ材の新たな用途展開」

<講演>

- 「大径材の利用拡大に向けた課題と取り組み」 森林総合研究所 伊神裕司氏
- 「スギ横架材の利用拡大に向けた丸太選別」 熊本県林業研究・研修センター 池田元吉氏
- 「スギによるツーバイフォー材の生産」 森林総合研究所 加藤英雄氏
- 「国産材の利用拡大に向けて」 中国木材株式会社 松岡秀尚氏
- 「木造集合住宅への国産材活用の事例」 大東建託株式会社 加藤富美夫氏

<総合討論>

(司会) 森林総合研究所 塔村真一郎氏、(パネリスト) 上記講師の皆様

【ポイント】

- ・大径化する国産材の利用拡大には用途開発が重要。そのためには、製材機械の高性能化や強度性能、乾燥技術等に関する課題を解決する必要がある。
- ・スギ材の利用拡大には、材質に関する情報発信や材質情報を伴う丸太流通システムの構築が必要。
- ・国産2×4材の今後の展開にスギは有望な樹種。寸法規格はグローバル基準、生産方式はローカル基準が適するだろう。
- ・国産材の利用拡大には、木造住宅において国産材の割合を高めるのが効果的。そのためには部材としての性能の明確化が必要。
- ・地域材の利用は、その強度に応じて適切に進めることが必要であり、木材自給率の向上とともに地域経済の活性化にも繋がる。